令和6年度　第5回タウンミーティング

能美市照隅会とのタウンミーティング

日　時　　令和6年7月29日（月）16:30～17:00

会　場　　たがわ龍泉閣

テーマ　　安全安心のまちづくり

参加人数　32人

1）開会

2）市長　市政報告

〇はじめに

・根上り七夕まつりの特別企画として、輪島市の白米千枚田の「あぜのきらめき」で使用している「ペットボタル」約25,000本を借り受けて、根上総合文化会館の芝生広場で能登地区の復旧・復興を祈念したイルミネーションを行っている。太陽光によるLED発光装置であり、日没とともに約４時間程、４色に色を変えながら点灯する。とても幻想的な雰囲気を醸し出しているので、ぜひ足を運んでいただきたい。展示期日は辰口まつりが終了する８月25日を予定している。

〇能美市を取り巻く情勢と課題

・全国と同様に人口減少、少子高齢化、社会インフラの老朽化などの課題があり、能美市では特に市内の11小中学校が老朽化をしている。自然災害等々もあり、一つずつ解決していくよう取り組んでいる。

・令和６年度の事業施策の方針は、事業施策の７本柱に対して、５つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるようにしている。

○令和６年能登半島地震

・元日に発生した令和６年能登半島地震により、市内では、約1,500件の罹災証明書の申請が出されている。施設にも様々な被害が出ており、特に大きな被害としては、緑が丘の市道のり面崩落により、道路が70m程にわたって陥没したことが挙げられる。このほか、美化センターののり面が崩落したり、神社の燈籠や石碑が倒壊したりしている。また、産業面では九谷焼の被害が大変大きかった。

・上下水道管も大きな被害を受けており、約８㎞の損傷が出ている。ただ、使用には大きな支障がないため、今現在は使用しながら順次、修理をしている。上下水道管の被害だけではなく、マンホール周辺が陥没しているところもたくさんあり、順次、ご協力をいただきながら修理、修繕をしている状況ではあるが、かなりの数があり、皆さんにもご迷惑をおかけしているのではないかと思っている。

・市内全域で同じように被害が出ているわけではなく、上下水道管の被害は福岡町、西任田町、赤井町が市内の中でも大きく、罹災証明書の発行では、寺井地区が他の地区よりも全体的に多いという傾向が出ており、74町会・町内会の中でも被害に差が出ている。

・ワンストップ窓口を設置し、市民の皆さんが１か所で様々な手続を行え、相談もできるように体制を整えた。あわせて能登への支援を並行して行っている。保健師等の人材派遣や、消防車、救急車、給水車、パッカー車の派遣、市民の皆さんからご協力をいただいた様々な支援物資を能登へお届けするとともに、二次避難所を開設した。また、能美市内のご親戚や知人の家に身を寄せていた避難者も大変多く、二次避難所にいらっしゃる方同様に様々な支援が受けられるよう避難者生活サポート窓口を開設し、対応を行った。

○防災減災対策

・能登半島地震の被害を受け、令和６年度当初予算に防災減災対策の予算を計上した。具体的には、耐震改修の補助額を上乗せしたり、ブロック塀を除去するための費用を上乗せしたりしている。また、これまでハザードマップや、避難所等を示すガイドブックを各ご家庭に紙で配布していたが、実際に地震が起き、避難所や高台に逃げるときに、紙ベースのものを持って避難するということがほとんどないと思われることから、スマートフォンで見られるデジタルハザードマップ等を作ろうと取り組んでいる。

・災害備蓄品の補充も行っている。これまで能美市では、県が決めた基準に基づいて、様々な品を約３日分備蓄していたが、今回の地震では、能登でトイレが不足したということか

ら、簡易トイレと使い捨ての哺乳瓶の備蓄数を倍に増やした。この他にも、備蓄する品物の数や種類を増やそうと準備をしている。

・一昨年の大雨を受けて、様々な取り組みを行っており、ハード面では国・県の協力を得ながらスピード感を持って工事を進めている。梯川は大変流れが緩く、注いだ水が鍋谷川に戻ってくる現象が起きるため、梯川の流域面積を増やす工事が進んでいる。鍋谷川、舘谷川においても、令和４年度と同量の雨が降っても、同じような被害に見舞われないように川幅を広げ、たまった土砂を取り除く作業を進めている。また、西川、熊田川は手取川の下流部に注いでいるが、手取川の水が増えた場合、水が西川、熊田川に戻ってくる、「バックウオーター現象」が起きる。これを防ぐために、西川、熊田川それぞれに樋門を造って、水が戻らないようにするとともに、しらさぎ団地辺りの西川の流域面積を倍にするような工事を順次行っている。

・川に注ぐ前に田んぼで雨水をためておく「田んぼダム」を行おうとしているが、どうやってうまく雨水をためるか、また、ためたことでどのぐらい農業に被害が出るのか、今年度調査や実証実験を行おうと予定している。

・手取川宮竹用水にご協力をいただき、大雨警報が出た場合に、手取川の水が宮竹用水へ流れ出ないようにせき止め、宮竹用水を排水路として使えるようにした。これによって、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことができ、内水被害に対して大きな効果が出るようになった。

・これまでは防災行政無線を使って、大雨警報や避難所のお知らせ等を行ってきたが、いつでもどこでも情報を受け取れるようＬＩＮＥを導入した。災害情報だけではなく、生活に必要な情報や能美市の魅力的な情報も簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひ友達追加していただきたい。

〇デジタル田園都市国家構想

・災害に対してだけでなく、普段の生活でも安全・安心に暮らせるようにするため、デジタルの力を使って様々なことに取り組み始めている。

・デジタル公民館ということで、市内の80以上の公民館にＷｉ－Ｆｉ環境を既に整え、公民館を多世代交流の場にしようと取り組んでいる。公民館で高齢者いきいきサロンや、スマホ教室、ｅスポーツを行い、GIGAスクール構想でタブレットを使って宿題をする小中学生がおじいちゃん、おばあちゃんに勉強を教えてもらうような多世代間のコミュニケーシ

ョンをさらに強めていこうと考えている。

・公民館が避難所になるケースが多いので、誰が避難所にいるか自動的にチェックする仕組みや、監視カメラをつけて、子どもたちが帰ったかどうか、公民館の付近の川がどれだけ増水しているか等を確認できるようにしようと考えている。また、公民館でオンラインによる医師の簡単な診察を受け、薬の処方を受ける「オンライン診療」や、家から注文した商品を公民館で受け取る「スマート物流」にも取り組もうとしている。

・福祉見守りあんしんマップをデジタル化し、ケアーマネジャーや民生委員さんが一人暮らしの高齢者等の生活状況を共有できるようにした。また、Iot家電・新聞等の取り組みも行おうとしている。

・デジタル化について、市民の皆さんから問い合わせや、デジタルという言葉を聞くだけで苦手だというような声を多くいただいているので、もし皆さんの町会・町内会、ご近所の人等で、内容をもっと深く知りたいということがあれば、ぜひお申しつけいただきたい。私が出向いて説明を行ったり、担当がいろいろと説明させていただいたりする機会を作っていきたいと思っている。

3）閉会